

奥秩父山系 金峰山(2595m)・瑞牆山(2230m) 登山



新緑に映えるミズナラ、クヌギなどの林

期 日 2017年6月9日～11日 参加 石川誠他1名

行 程 6/9(金)晴

自宅 5:15 発・圏央道・中央高速経由・須玉 I C 経由 9:05 みずがき山荘駐車場着
瑞垣山荘 9:40—10:35 富士見平小屋 10:45—12:40 大日岩 13:00—15:55 金峰山頂上—
金峰山山小屋 16:30 着 宿泊

圏央道、中央高速経由で須玉で降り、1 時間程でみずがき山荘前駐車場に到着。山荘からシラカバ林の中を進み林道を横断して急登すると 1 時間程で新緑の中にある富士見平小屋へ到着する。ここは瑞牆山への分岐点でもある。ここから飯盛山の裾を絡み鷹見岩の道を分けて下りになると大日小屋が登山道の下の方の林の中に建っている。

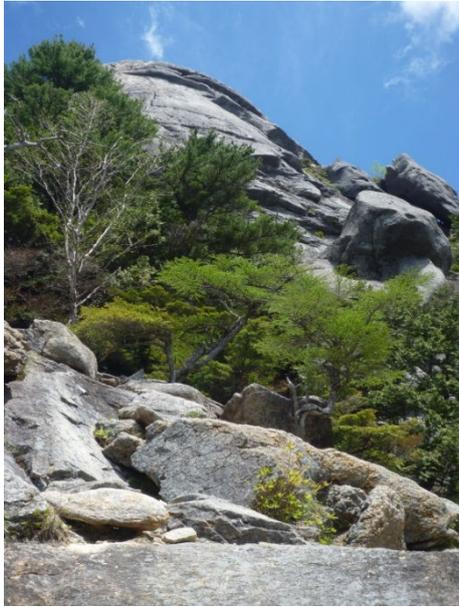


富士見小屋

小屋から縦八丁の急登が始まり大日岩の岸壁を仰ぐとしばらくして稜線に出る。

此处から苔むす原生林の中を登ると砂払いの稜線に飛び出す。岩稜を暫らく登ると金峰山のシンボル五丈岩が望まれる。なおも岩稜帯を登って頂上に出る。手前には鳥居のある五丈岩が鎮座している。頂上から北へ 15 分ほど下り、金峰小屋に入る。

小屋は近ツリの登山パーティーなど多くの登山者が既に到着している。我々も予約していなかったが宿泊を申し入れると食事な



見上げる大日岩

しの素泊りとなったが小屋主の好意で美味しい白ワインと鳥の照り焼きとデザートにメロンが付いた美味しい夕食にありつくことが出来た。朝食はおじやにコンブの佃煮、オレンジ、お新香、と精進料理の様な簡素な朝食で、疲れた身体には丁度良かったのではないかな。



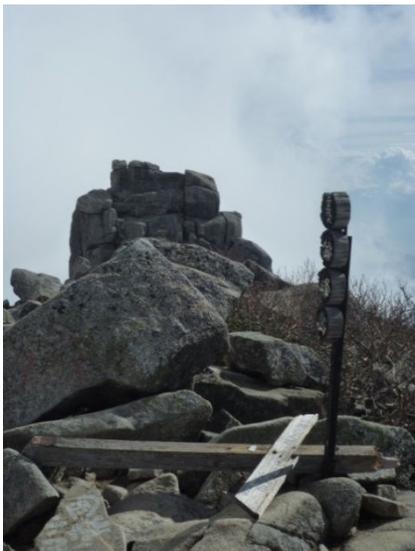
シャクナゲが美しい季節

朝食を待つ間隣席した方とどこからですかと話を交わしているうち、中には百名山達成率 70%の名古屋から来た方には、大杉谷の話などを聞くことが出来た。

また、富士宮から来た方と話を交わす内、富士宮なら富士宮山岳会がありますねと話した処、義弟が北ア・唐沢岳幕岩で登攀中に亡くなられたとの事だった。お名前を聞くと亡くなったのは望月忠という方で私も名前だけは知っていたのでその旨話をしたところ、話が進み、実は彼の話を小説にして山の小説集『岸壁に舞う』という本を発行したとのこと、残りがあれば是非読みたいので送って貰いたいとのことでお願いし、先日ご親切にお送りいただいた。まさに一期一会という諺があるが、そこで出会わなければこういう話にはならずまさに奇遇であった。



その方は内藤さんと仰って廻り目平から登って同じ道を今日も下るとのことで、金峰山には4度目とのこと、内藤さんとはここでお別れした。



金峰山頂上



鳥居のある五丈岩

6/10 (土) 晴

金峰山小屋 6:15—7:50 大日岩 8:00—9:15 富士見平 9:25—11:50 瑞牆山 12:25—14:10 休憩 14:20—15:00 みずがき山荘—16:00 増富鉱泉 (金銭閣) 泊

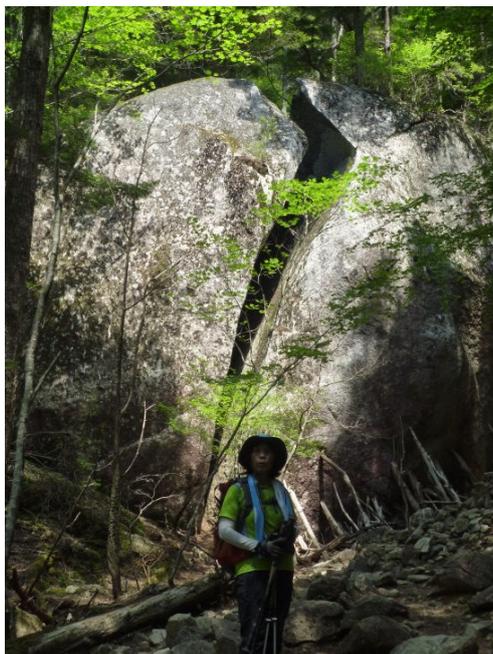
金峰山小屋出てトラバースルートを千代の吹上に戻る、此処からは八ヶ岳、遠くに富士山を眺めることが出来た。岩稜帯の道で大日岩、を經由して富士見平小屋に戻る。今日は、土曜日でもあり、天気も良く、テント数が増えていて。若者たちの登山者が多く見えた。一休みして、瑞牆山への道を進む。いったん林を抜けて天鳥川の河原に降り立つ、しばらくして大岩に亀裂の入った桃太郎岩という岩の脇を沢状の登山道を登る、所々に鎖場もあり、コルに出るまでは、かなり急登も見られた。週末とも会ってかなりの登山者が見られ、人気のある山であることがうかがえる。



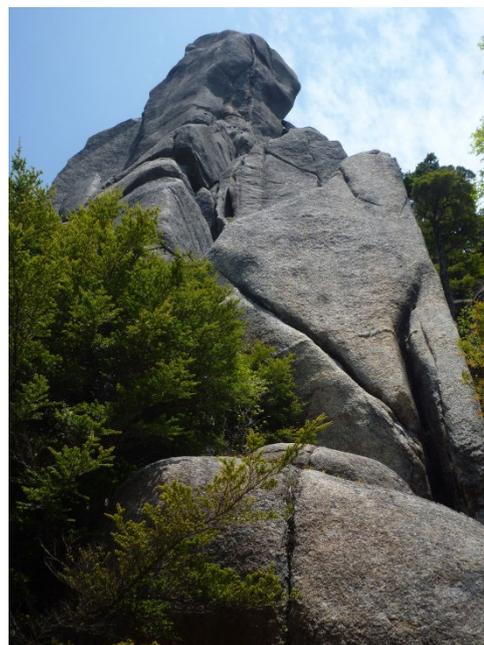
稜線からの富士山遠望



右に瑞垣、正面に 八ヶ岳連峰



桃太郎岩



大ヤスリ岩

沢筋の登山道を詰めてコルへ、此処は不動沢を経て小川山林道への分岐でもあった。コルの為、吹く風も強くなり半袖では少し涼しい。ここからは10分ほどで瑞牆山頂上に出た。頂上は風が強い為、林の中で多くの登山者がくつろいでいた。頂上から下るとき大ヤスリ岩を登攀中のパーティーを見る。途中から雨が降ってきたが無事降りただろうか。



頂上からの大ヤスリ岩



頂上は多くの登山者で混んでいた。



瑞垣山頂から 昨日登った金峰山を見る



新緑が美しい、のんびりと登山道を下ってゆく

6/11 日（日）晴

増富ラジウム鉱泉 8:10—中央高速経由府中 I C—稲城市にある娘の家により帰宅

石川 誠 記